

技術・家庭科

I 技術・家庭科の学習目標

- (1) 日常の家庭生活に関心をもち、生活を見直す姿勢を養う。
- (2) 生活課題を解決するために実際の生活の場で実践できる基礎的な知識と技術を身につけさせる。
- (3) どうすればよいのか判断して意思決定し、よりよい生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。
- (4) 社会の変化に主体的に対応できる人間育成を目指して、生活の自立と生きる力を育む。

II 技術・家庭科の6年間の科目構成と学習内容

		「科目」と学習内容		発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
中学段階	1年	家庭分野【全員必修】 家庭分野ガイダンス A 家族・家庭生活 1 自分の成長と家族・家庭生活 B 衣食住の生活(衣) 1 目的に応じた衣服の選択 2 日常着の手入れと保管 3 生活を豊かにするための製作 4 持続可能な衣生活 住) 1 住まいのはたらきとこころよさ 2 安全な住まいで安心な暮らし 3 持続可能な衣生活	技術分野【全員必修】 技術分野ガイダンス 1編 材料と加工の技術 1章 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み 2章 材料と加工の技術による問題解決 3章 社会の発展と材料と加工の技術 2編 生物育成の技術 1章 生物育成の技術の原理・法則と仕組み 4編 情報の技術 1章 情報の技術の原理・法則と仕組み	テーマ学習 【家庭分野】 ・家庭内での自分の役割 ・日本と世界の伝統的の衣服 ・日本の住居、世界の住居 【技術分野】 プレゼンテーション能力 ・コンピュータリテラシーと情報モラル ・プレゼンテーションソフトの活用 資格試験 ・P検5級の受験
	2年	家庭分野【全員必修】 B 衣食住の生活(食) 1 食事の役割と食習慣 2 中学生に必要な栄養を満たす食事 3 日常食の調理 4 献立づくり 5 持続可能な食生活	技術分野【全員必修】 3編 エネルギー変換の技術 1章 エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み 2章 エネルギー変換の技術による問題解決 3章 社会の発展とエネルギー変換の技術 2編 生物育成の技術 2章 生物育成の技術による問題解決 3章 社会の発展と生物育成の技術 4編 情報の技術 2章 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決 3章 計測・制御のプログラミングによる問題解決	テーマ学習 【家庭分野】 ・自身の食事摂取基準(1日当り)と理想の比較検証 ・郷土料理(我が家の味、世界の味)と行事食
	3年	家庭分野【全員必修】 A 家族・家庭生活 1 幼児の生活と家族 2 幼児とのかかわり 3 家庭生活と地域のかかわり C 消費生活・環境 1 家庭生活と消費 2 購入・支払いと生活情報 3 消費者被害と消費者の自立 4 持続可能な社会	技術分野【全員必修】 情報の技術 1 情報の技術の原理・法則と仕組み 1-1 情報の技術とは何だろう 1-2 情報のデジタル化 1-3 情報通信ネットワークの仕組み 1-4 安全に利用するための情報モラル①、②、③ 1-5 安全に利用するための情報セキュリティ①、②	テーマ学習 【家庭分野】 ・ゴミの減量化 ・省エネルギー 【技術分野】 ・ネットワーク接続されたクライアントPCでデジタル作品を製作 ・デジタル作品製作についてのレポート作り ・PCによる表計算を利用したグラフ作成の発展的課題
高校段階	4年	家庭基礎【全員必修】 A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1)生涯の生活設計 (2)青年期の自立と家族・家庭 (3)子供の生活と保育 (4)高齢期の生活と福祉 (5)共生社会と福祉 B 衣食住の生活の自立と設計 (1)食生活と健康 (2)衣生活と健康 (3)住生活と住環境 C 持続可能な消費・環境 (1)生活における経済の計画 (2)消費行動と意思決定 (3)持続可能なライフスタイルと環境 D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		学校家庭クラブ活動 ・デイケアセンターとの交流 ・こども園との交流 体験学習 ・車椅子体験

* 5年・6年は家庭科の設定科目なし

教科名 技術・家庭科
 科目名 技術・家庭
 対象 1学年全員

I 学習到達目標

- 1 実践的・体験的な学習を通して、生活の自立に必要な衣生活や住生活、ものづくりに関する知識と技術を習得する。
- 2 情報通信について学び、情報に関するモラルや情報の基礎を身につける。
- 3 課題を持って生活をよりよくしようとする能力と態度が育つ。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 年間授業時数78時間
- 2 1クラス2展開 20人授業
週2単位2時間続き。1時間ごとに技術分野と家庭分野を入れ替えて学習。

III 教科書・補助教材

教科書 「新しい技術・家庭（技術分野）」東京書籍 家庭科703「技術・家庭（家庭分野）生活の土台 自立と共生」開隆堂
 補助教材 「技術・家庭ノート（家庭分野）」正進社 「中学用課題で学ぶ 技術分野「情報」テキスト」 P検協会
 木材加工キット（技術分野） 被服作品キット（家庭分野）

IV 学習計画

学期	月	学 習 内 容				授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿題						
	4		<技術分野> 技術分野のガイダンス	<家庭分野> 家庭分野の学習を始めよう	<技術分野> 木材加工キット製作 実験・実習 課題プリント	<家庭分野> 学習ノート 課題プリント 調べ学習	15
	5	1学期 期 末 考 査	1編 材料と加工の技術 1章材料と加工の技術の原理・法則と仕組み 1. 身の回りの材料と加工の技術 2. 木材・金属・プラスチックの特性	A 家族・家庭生活 B 衣食住の生活 衣) 1 目的に応じた衣服の選択 2 日常着の手入れと保管			15
	6					合計30	
7	3. 材料に適した加工方法 4. 丈夫な製品を作るために 5. 材料と加工の技術の工夫						
	夏休み宿題		製作する木工製品の設計	夏季休業中課題			
二 学 期	9		2章 材料と加工の技術による問題解決 ・木工製品の設計・製作 3章 社会の発展と材料の加工の技術 材料と加工の技術の最適化・これからの技術	3 生活を豊かにするものの製作 4 持続可能な衣生活	<技術分野> 木材加工キット製作 実験・実習 課題プリント	<家庭分野> 被服実習 学習ノート 課題プリント 調べ学習	15
	10						15
	11	2学期 期 末 考 査					合計30
	12						
	冬休み宿題						
三 学 期	1	3学期 学 年 末 考 査	<技術分野> 4編 情報の技術 1章 情報の技術の原理・法則と仕組み	<家庭分野> B 衣食住の生活 住) 1 住まいのはたらきとここちよさ	<技術分野> コンピュータ実習 学習ノート	<家庭分野> 学習ノート 課題プリント	9
	2		2編 生物育成の技術 1章 生物育成の技術の原理・法則と仕組み	2 安全な住まいで安心な暮らし 3 持続可能な住生活			9
	3						合計18
							計78 (2単位)
評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査（各学期1回、年間3回）、②提出物（宿題ノート、課題プリント、製作）、③学習の様子（授業参加態度、提出物状況）						

二時間続きの授業を一時間ずつ展開して行う

教科名 技術・家庭科
 科目名 技術・家庭
 対象 2学年全員

I 学習到達目標

- 1 実践的・体験的な学習を通して、生活の自立に必要な食生活、ものづくりに関する知識と技術を習得する。
- 2 コンピュータに興味・関心をもち、基本操作がわかる。
- 3 課題を持って生活をよりよくしようとする能力と態度が育つ。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 年間授業時数78時間
- 2 1クラス2展開 20人授業
週2単位2時間続き。1時間ごとに技術分野と家庭分野を入れ替えて学習。

III 教科書・補助教材

教科書 「新しい技術・家庭（技術分野）」東京書籍 家庭科703「技術・家庭（家庭分野）生活の土台 自立と共生」開隆堂
 補助教材 「技術・家庭ノート（家庭分野）」正進社 「中学用課題で学ぶ 技術分野「情報」テキスト」P検協会
 ラジオキット・栽培キット（技術分野）・ウッドホビーキット

IV 学習計画

学	月	学 習 内 容		授業時数	備考		
		「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容				
一 学 期	春休み宿題						
	4	<技術分野> 3編 エネルギー変換の技術 1章 エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み 2章 エネルギー変換の技術による問題解決 ※ラジオ製作 2編 生物育成の技術 1章 生物育成の技術の原理・法則と仕組み 2章 生物育成の技術による問題解決 ※栽培キットによる栽培実習 4編 情報の技術	<家庭分野> B衣食住の生活（食） 1 食事の役割と食習慣 ①食事の役割 ②健康良い食習慣 2 中学生に必要な栄養をみたく食事 ①中学生の発達と必要な栄養素 ②栄養素のはたらきと6つの基礎食品群	<技術分野> ラジオキット製作 (実験・実習) 課題プリント 栽培キット (実験・実習) 課題プリント	<家庭分野> 学習ノート B衣食住の生活 1 食事の役割と食習慣 ①食事の役割 ②健康に良い食習慣 2 中学生に必要な栄養を満たす食事 ①中学生の発達と必要 ②栄養素のはたらきと6つの基礎食品群 ③献立ステップ1 栄養バランスを目で見て判断 調理実習	15	二時間連続の授業を一時間ずつ展開して行う
	5					15	
	6					15	
	7					15	
7	15						
夏休み宿題		ベビーリーフの栽培記録 (課題と実践)	食生活の課題を見つけよう (課題と実践)				
二 学 期	9	4編 情報の技術 3章 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決 3章 計測・制御のプログラミングによる問題解決 2編 生物育成の技術 3章 社会の発展と生物育成の技術 3編 エネルギー変換の技術 3章 社会の発展とエネルギー変換の技術	B衣食住の生活（食） 3 さまざまな食品とその選択 ①生鮮食品の選択と保存 ②加工食品の選択 ③食品の安全と情報 4 日常食の調理 ①調理の計画 ②おいしさと調理 ③ますます好きになる肉の調理 ④こんなにおいしい魚の料理 ⑤好きになる野菜の調理	ラジオキット製作 (実験・実習) 課題プリント 栽培キット (実験・実習) 課題プリント	学習ノート B衣食住の生活 3 さまざまな食品とその選択 ①生鮮食品の選択と保存 ②加工食品に選択 ③食品の安全と情報 4 日常食の調理 ①調理の計画 ②おいしさと調理 ③ますます好きになる肉の調理 ④こんなにおいしい魚の調理 ⑤好きになる野菜の調理	15	二時間連続の授業を一時間ずつ展開して行う
	10					15	
	11					15	
	12					15	
冬休み宿題							
三 学 期	1	4編 情報の技術 3章 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決 3章 計測・制御のプログラミングによる問題解決 2編 生物育成の技術 3章 社会の発展と生物育成の技術 3編 エネルギー変換の技術 3章 社会の発展とエネルギー変換の技術	B衣食住の生活（食） 5 地域の食文化 地域の食文化 日本各地の郷土料理 6 献立づくり 7 持続可能な食生活 持続可能な食生活をめざして	コンピュータ実習 学習ノート	B衣食住の生活 5 地域の食文化 地域の食文化 日本各地の郷土料理 6 献立づくり 7 持続可能な食生活 持続可能な食生活をめざして	9	二時間連続の授業を一時間ずつ展開して行う
	2					9	
	3					9	
					計78 (2単位)		
評価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査(各学期1回、年間3回)、②提出物(宿題ノート、課題プリント、製作)、③学習の様子(授業参加態度、提出物状況)						

教科名 技術・家庭科
 科目名 技術・家庭
 対象 3学年全員

I 学習到達目標

- 1 実践的・体験的な学習を通して、家族や家庭と子どもの成長についての理解を深める。
- 2 身近な消費生活に関する知識を習得する。
- 3 コンピュータを利用したものづくりを通して、コンピュータの活用を身につける。
- 4 課題を持って生活をよりよくしようとする能力と態度が育つ。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 年間授業時 39時間
- 2 1クラス2展開 20人授業で行う。技術・家庭科を隔週で学習する。

III 教科書・補助教材

教科書 「新しい技術・家庭（技術分野）」東京書籍 家庭科703「技術・家庭（家庭分野）生活の土台 自立と共生」開隆堂
 補助教材 「技術・家庭ノート（家庭分野）」正進社 「中学用 課題で学ぶ技術分野 情報テキスト」P検協会
 マグカップデザイン（技術分野） 保育作品キット（家庭分野）

IV 学習計画

学期	月	学習内容		授業時数	備考			
		考査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容		
一学期	春休み宿題							
	4	1学期 期末 考査	<技術分野> 4編「情報の技術」 1章 情報の技術の原理・法則と仕組み 1-1 情報の技術とは何だろう 1, 2 情報の技術とは	<家庭分野> A家族・家庭生活 1. 自分の成長と家族・家庭生活 2. 幼児の生活と家族 3. 幼児とのかかわり	<技術分野> 学習プリント ノート コンピュータ実習	<家庭分野> ノート 製作 課題プリント 調べ学習	7	一クラス二展開、技術と家庭を隔週で学習する。
	5		・マグカップ図案製作に必要な作業内容の説明 ・マグカップ図案製作	【製作】 幼児の生活と遊び 絵本製作	学習プリント ノート コンピュータ実習	7		
	6		1-1 情報の技術とは何だろう			1		
	7		3 ハードウェアとソフトウェアの発達					
7	1-2 情報のデジタル化 1, 2 情報のデジタル化				合計15			
	夏休み課題		夏季休業課題	絵本製作準備				
二学期	9	2学期 期末 考査	1-2 情報のデジタル化	【製作】 幼児の生活と遊び 絵本製作	学習プリント ノート コンピュータ実習	・製作 ・読み聞かせ (作品発表)	7	一クラス二展開、技術と家庭を隔週で学習する。
	10		3 情報のデジタル化とデータ量	4. 家庭生活と地域のかかわり		7		
	11		1-3 情報通信ネットワークの仕組み		学習プリント ノート コンピュータ実習	1		
	12	1, 2 情報通信ネットワーク				合計15		
	冬休み宿題		冬季休業課題	消費分野 課題				
三学期	1	3学期 学年末 考査	4編「情報の技術」 1-3 情報通信ネットワークの仕組み	D身近な消費生活と環境 1. 家庭生活と消費 2. 購入・支払いと生活情報 3. 消費者被害と消費者の自立 4. 持続可能な社会	学習プリント ノート コンピュータ実習	ノート 課題プリント 調べ学習	4	一クラス二展開、技術と家庭を隔週で学習する。
	2		3 情報機器を識別する工夫			4		
	3		4 情報を伝える工夫			1		
			1-4 安全に利用するための情報モラル ①, ②, ③				合計9	
			1-5 安全に利用するための情報セキュリティ①, ②					
							39 (1単位)	
評価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査（各学期1回、年間3回）、②提出物（長期休業中課題、課題プリント、作品等）、③学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）							

教科名 家庭科
 科目名 家庭基礎
 対象 4学年全員

I 学習到達目標

- 1 家族や地域の生活課題を解決し、男女が協力して家庭生活を経営する力を身につけるようにする。
- 2 衣食住の生活を科学的に理解し、基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、充実した生活を営むことができるようにする。
- 3 家族、消費生活について理解し、生涯の生活設計について主体的に考えることができるようにする。
- 4 自立して生きていく力を身につけると共に、支え合って生きることの重要性を理解し主体的に行動できるようにする。

II 授業の進め方(授業形態等)

- 1 1クラスを2グループに分けて少人数授業(20名)を行う。
- 2 各クラスの2グループは、学期内に入れ替わってA分野・B分野 両方の学習内容を学ぶ。

III 教科書・補助教材

教科書「家基707 図説家庭基礎」実教出版
 補助教材「生活学Navi 資料+成分表2023」「家基707 図説家庭基礎学習ノート」

IV 学習計画

学期	月	学習内容		授業時数	備考						
		考査	「教科書」の学習内容			副教材・その他の学習内容					
一学期	4 5 6 7	1学期 期 末 考 査	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動								
			<A分野> 第7章 住生活をつくる 1.人と住まいのかかわり 2.平面設計からみた住空間 3.ライフステージと住まいの計画 4.健康に配慮した住まい 5.安全な住まい(防災・減災) 6.持続可能な住まい 第3章 高齢者とかかわる 1.高齢社会に生きる 2.高齢者を知る 3.高齢者のサポートと介護の心 4.高齢社会を支えるしくみ 第4章 社会とかかわる 1.共に生きるために 2.社会保険制度—公助— 3.社会の一員としての私たちの役割 —互助・共助—	<B分野> 第1章 自分らしい生き方と家族 1.生涯発達する人生 2.これからの人生をデザインする 3.青年期を生きる 4.生活を支える労働 5.生活時間から見えてくるもの 6.男女共同参画社会をめざして 7.現代の家族 8.家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題 9.家族に関する法律の理念と変化 10.家族に関わる法律	<A 分野> ■資料集 第5章住生活 第3章高齢者・共生 ■学習ノート 第7章住生活 第⑦章高齢者とかかわる 第4章社会とかかわる	<B分野> ■資料集 第1章自分・家族 ■学習ノート 第1章自分らしい生き方と家族	A 15 B 15 合計 30				
			夏休	ホームプロジェクトコンクール応募							
			二学期	9 10 11 12	2学期 期 末 考 査	第5章 食生活をつくる 1.私たちの食生活と健康 2.5大栄養素 3.炭水化物 4.脂質 5.たんぱく質 6.ミネラル 7.ビタミン 8.その他の食品(災害時の食の工夫) 9.食品の選択と表示 10.食品の衛生 11.食料自給率と食のグローバル化 12.食の未来と環境への取り組み 13.食事摂取基準 14.食品群別摂取量のめやす 15.献立作成 16.調理の基本	第6章 衣生活をつくる 1.人と衣服のかかわり 2.健康で安全な衣服 3.衣服素材の種類と特徴 4.衣服素材の性能と改善 5.衣生活の計画と購入 6.衣服の管理 7.家庭での洗濯・保管 8.持続可能な衣生活をつくる 【作品製作】	■資料集 第7章食生活 食品成分表 ■学習ノート 第5章食生活をつくる	■資料集 第4章衣生活 ■学習ノート 第6章衣生活をつくる	A 15 B 15 合計 30	
冬休											
三学期	1 2 3	3学期 学 年 末 考 査				第8章 経済的に自立する 1.日々の収入の支出を把握する 2.社会と家計の変化 3.長期的な経済計画を立てる 4.経済のなかの家計 第9章 消費行動を考える 1.契約と主体的な消費行動 2.多様化する販売方法と問題商法 3.消費者を守る制度・法律 4.多様化する支払い方法 5.消費者の権利と責任 6.持続可能な社会の構築 7.持続可能な社会をめざす取り組み	第2章 子どもとかかわる 1.子どもの誕生 2.からだの発達 3.運動機能の発達と知的発達 4.かかわりのなかの発達 5.子どもの生活習慣と健康 6.子どもの食生活・衣生活 7.子どもと遊び 8.親になることを考えよう 9.すこやかに育つ環境と支援 10.子どもを守る法律・制度	■資料集 第6章消費・経済と環境 ■学習ノート 第8章経済的に自立する 第9章消費行動を考える	■資料集 第2章子ども ■学習ノート 第2章子どもとかかわる	A 9 B 9 合計 18	
評 価					計 78 (2単位)						
			家庭基礎の学習内容を2領域に分け、展開して授業を行ったものに対し各々評価を出し、合算して5段階の評定を行う。 学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査(各学期1回、年間3回)、②提出物(ノート、課題プリント、作品)、③学習の様子(授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等)								